

議長（明和善一郎君） 3番 吉川孝弘君。

3番（吉川孝弘君） おはようございます。3番議員の吉川です。

質問に入る前に、4月の村議会におきましてご支持をいただき、この席に立っていることに感謝申し上げます。今後ともご指導、ご鞭撻、よろしく申し上げます。

では、通告に従いまして2点質問させていただきます。

まず初めに、蓮の花畑の継続・景観保全ということで、北陸新幹線が3月14日に開通し、県外から富山に来る方が増加しております。

富山駅から富山地方鉄道の舟橋駅で下車すると、すぐ左にはばんどり騒動で有名な無量寺があります。富山県指定有形文化財である阿弥陀如来像が安置されている無量寺と蓮の花とのベストマッチングな環境から、写真を撮っている人や蓮を眺めている人をよく見かけます。訪れた人は、「舟橋村にこんな素敵な場所があったのですね」とよく言われます。この言葉は村外から見た素直な言葉ではないでしょうか。

無量寺の前の蓮畑は個人で作付されていますが、念入りな手入れが大切で、維持していくのが年々大変になってきていると聞いております。もし民間の方が蓮の花をつくるのをやめれば、舟橋村のすばらしい景観が1つ消えることとなります。

保育所の子どもたちはジャガイモや枝豆を植える体験があり、小学生は稲の田植えや収穫の体験がありますが、中学生の自然に触れる体験が少ないと感じております。ぜひ蓮の花を維持していくために、中学生の環境学習を通しての実践的学習や、村民の力で舟橋村の顔である駅周辺を魅力的なものにできないかと思っております。

そして、無量寺には県指定文化財の阿弥陀如来立像を安置する本堂があり、境内は自由に見学できることから、村内外から多くの人を訪れます。

蓮の花が咲く7月中旬からの時期に、コミュニティーの一環としてイベント等を実施することはできないでしょうか。

私の考えでは、参道をろうそくの火でライトアップしたり無量寺をライトアップ、境内では趣味の音楽やライブダンス、縁日、盆踊りなどがイメージされます。

舟橋村は新旧住民の相互理解がまだまだ足りないように感じております。このイベントを通して新旧住民の交流の促進を図っていくことができるのではないかと感じております。

また、この時期は帰省時期とも重なります。ふるさとに帰省された人が懐かしく、ふるさとを感じてもらえることで、Uターンや移住を考えてもらえるきっかけになるので

はないでしょうか。

さらに、テクノホールや中小企業センターに行きますと、蓮人形や蓮の実でつくられた数珠などが舟橋村の特産品として展示されていますが、村内ではあまり目にすることはありません。

今後は、村内においてもイベントで蓮を使った特産品の創作を行うなどし、このことが新旧住民の交流やものづくりの楽しさを感じることに繋がっていけば、地域の基盤強化や魅力向上、住んでいてよかったと感じる舟橋村になれるのではないかと思います。が、当局の意見を聞きたいと思います。

次に2点目ですが、舟橋中学校の防犯監視カメラの設置のことで。

舟橋村では、安心・安全な村づくりを目指し、20台近くの防犯カメラの設置を行ってきました。この数はほかの地域と比べると多く、住民の皆さんは安心感を持たれているのではないのでしょうか。

最近では、各家庭でも室内から外を確認できたり、録画機能がついた機器が普及し、各家庭でも防犯などに気をつけるようになってきました。

ところが、小学校には6基の防犯カメラの設置があるのに、中学校には設置されていないのです。

文部科学省の「学校施設の防犯対策について」の項目、「第2章 学校施設の防犯対策に係る計画・設計上の留意点」の4項には、「防犯監視システムの導入」とあります。その中には、「防犯監視システムには出入管理と侵入監視の2つの機能がある。システムを設置する際は、外部からの来訪者の確認、見通しが困難な場所や死角となる場所の状況把握、犯罪企図者の侵入防止や犯意の抑制、児童生徒等の安心感の醸成等、学校や地域の状況を踏まえ、その設置目的を明確化した上で適合するシステムを導入することが大切である」としております。

このことから、正面玄関には自動ロック機能がついた鍵とセキュリティ機能がついた防犯監視カメラの設置が望ましいと思われれます。

防犯設備をつけることにより安心感が生まれ、未来ある子どもたちを見守ってこそ安心・安全な舟橋村と言えるのではないのでしょうか。

この2点に対してよろしく申し上げます。

議長（明和善一郎君） 教育長 高野壽信君。

教育長（高野壽信君） 吉川議員さんのご質問にお答えします。

まず、学校の危機管理の考え方について述べさせていただきます。

子どもたちにとって学校は、安心して学ぶことができる場所であることは大前提であります。事件、事故や災害は、いつ、どこで、誰に起こるか予測することが困難な場合がほとんどですが、適切な対策をとることによって、危機的状況の発生を防止したり発生時の被害を低減したりすることが可能になります。

不審者侵入や火災、地震、感染症、食中毒などに対する適切かつ確実な危機管理体制を確立しておくことは、学校において緊急かつ重要な課題であります。

学校では教育課程に基づき、発達段階に応じて計画的、意図的に安全教育が実施されています。特に小学校では、少なくとも2カ月に1回の割合で避難訓練を実施しておりますし、小中学校とも危機管理体制の確立を図り、危険発生時における具体的な対応及び留意点などをまとめた学校危機管理マニュアルを作成し、とっさの事件、事故や災害発生時に迅速に対応できるようにしております。

平成13年の大阪府池田市で発生した小学生無差別殺傷事件という痛ましい事件をきっかけに、登下校時の防犯ブザーの携行、登下校の見守り隊、さすまたなどの防御器具、来校者の名札着用、学校の施錠、敷地に柵の設置、防犯カメラの設置、ガードマンの配置など、全国の学校で地域の状況や学校の実態に応じて安全に対する強化策が練られています。

小学校では、平成21年の耐震対策、増改築の折に防犯カメラを設置し、玄関の施錠が自動でできるようになっています。

また、駅駐輪場とその周辺、図書館内のラウンジ、公園などに防犯カメラを設置し、自転車の盗難が減るなど、その効果もあらわれていると聞いています。

一方、防犯カメラの設置が広がる中、吉川議員さんのご指摘のとおり、中学校には未設置になっておりますが、次年度をめどに検討中であります。

導入に関しましては、設置場所、監視運用体制などを総合的に勘案し進めていきたいと考えております。

なお、防犯カメラを設置したからといって、これで安心ということはありません。教職員の危機管理意識や学校設置者の瑕疵がないように細心の注意を払っていくことが大切だと考えております。

以上をもちまして答弁とさせていただきます。

議長（明和善一郎君） 村長 金森勝雄君。

村長（金森勝雄君） 3番吉川議員さんの蓮の花畑の継続・景観保全についてのご質問にお答えをいたします。

議員ご指摘のとおり、舟橋駅北側周辺には、県の重要文化財の阿弥陀如来の立像が安置されている無量寺や呉東地区唯一の前方後方墳の天神堂古墳、また蓮の花畑、さらには駅舎と併設の図書館があります。

本村が平成25年度に策定いたしました環境総合整備計画では、舟橋駅北側を歴史・文化ゾーンと位置づけまして、当該施策を進めているところであります。

現在、昨年度用地取得いたしました天神堂古墳の隣接地では駅前公園整備計画を進めておりまして、今後、周辺環境を十分配慮した公園づくりについて検討してまいります。

竹内地区では近年、宅地開発が進みまして、小さな子どもさんを持つ子育て世代の方が多く住んでおいでになります。また、当該地区では、地域の方が中心となりまして、新住民同士の交流はもちろんのこと、新旧の住民の交流が比較的進んでいると理解しておりまして、今回の公園事業を実施するには最も適切な地区でないかとも考えておるものであります。

公園の本来の目的は、住民交流の拠点となってコミュニティーの醸成を図ることでありますので、どのような公園をつくり上げるかを地元の皆さんと十分協議しながら実施してまいりたいと考えております。

なお、1回目の説明会を明日の19日に予定しております。

また、議員からの中学生の自然体験学習のご提案につきましては、今後、教育委員会との協議が必要であると考えております。

また、議員ご指摘の住民同士の交流による舟橋村の魅力向上や、住んでよかった村づくりへの考えは本村が目指すまちづくりの基本でもあり、その実現に向けて鋭意努めてまいりますので、議員各位のご理解とご協力をお願い申し上げまして、答弁とさせていただきます。

よろしく願いいたします。